

1 単元名 公民的分野 第4章私たちの暮らしと経済 3 国民生活と福祉

2 単元の目標

- (1) 租税の意義と役割、少子高齢社会や経済上の諸課題に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている役割や問題点について多面的・多角的に考え、さまざまな観点や立場から判断することができる。
(社会的な思考・判断)
- (3) 社会保障や経済に関する資料を集め活用して自分の考えをまとめたり、分かりやすく発表をしたりすることができる。
(資料活用の技能・表現)
- (4) 国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしていることについてそのあらましを租税と財政、社会保障、公害と環境を通して理解し、その知識を身につけることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 教材観

国の政治の根幹ともいえる財政とその働きについて学ぶ単元である。特に、高齢社会に直面している現状は、今後さらに厳しい状況を生み出すこととなろう。第2章で学んだ基本的人権の尊重と第3章で学んだ政治学習をもとに、今後の日本の税や福祉の在り方を真剣に考えることができる単元である。

(2) 生徒観

基本的人権の学習や政治分野の学習に、大変意欲的に取り組むことができた。特に、政治への関心は高くなってきたようである。衆議院の解散・総選挙・新しい内閣の誕生など一連の政治の動きに関心を持った生徒が多かった。授業中の発表については、挙手する生徒が多く見られ、多様な意見を発表することができている。この単元では、異なる立場の意見を考慮した考えを構築できるような工夫をしていきたい。また、少子高齢社会と財政との関わりについて学び、今後の社会保障制度の進むべき方向性について自分の考えを持つことで、現在または将来の自分がそれにどのように関わっていくのかを考えるきっかけとしていきたい。

(3) 指導観 (研究に関わって)

以上のことから、本単元では、税と社会保障制度の今後の在り方を具体的に考えることができるように工夫していきたい。また、自分の考えを新たに構築する場面を設定し、深く考えることができるように指導していきたい。

また、公民的分野の活用力としては次のように考えている。

- ・現在の社会的事象について自分はどう感じるのか、将来どうすべきかなどについて考える力や判断する力

この力をつけるために、本単元では、財政の問題点を探り、今後の福祉の在り方を異なる立場で考えさせる場面や直接該当者から話を聞く場面を設定し、思考を深めさせたい。

4 指導評価計画（総時数 9 時間 本時は第二次 3 / 3）

次 (配時)	学習活動	関	考	技	知	評価規準
第一次 (3)	政府の仕事と租税 租税の種類としくみについて調べる。	○			◎	税金の種類について意欲的に調べようとしている。(観察) 税金の種類としくみについて基本的な知識を身につけている。(テスト)
	財政の働き 財政の働きについて調べる。				◎	財政の働きについて基本的な知識を身につけている。(テスト)
	財政の問題点と少子化 日本が抱える財政の問題点と少子高齢化との関連について調べる。			◎		複数の資料から、日本が抱える課題について考えている。(ワークシート)
第二次 (3)	社会保障と国民の福祉 社会保障の基本的な柱について調べる。				◎	日本の社会保障制度について基本的な知識を身につけている。(テスト)
	社会保障と国民の福祉 年金制度の問題点と解決策を発表し合う。		◎			年金制度の問題点と解決策を発表しあい、考えを深めている。(ワークシート)
	社会保障と国民の福祉 これからの社会保障制度について考える。		◎			日本の社会保障制度は今後どうあるべきか、自分の考えを持っている。(ノート)
第三次 (3)	公害の防止と環境保全 環境を守るためにどんな取り組みがなされているかを調べる。			◎		環境保全のために行われている取り組みを資料から調べている。(ノート)
	日本経済の課題 日本経済の課題にはどのようなものがあるか調べる。			◎		新聞記事を利用して最近の経済の問題点について調べる。(ノート)
	第4章のまとめ まとめの問題に取り組み、重要事項の確認をする。				◎	第4章の重要語句や課題についての知識を身につけている。(テスト、プリント)

5 本時の学習

(1) 題材 国民生活と福祉 (第2次 3 / 3時)

(2) ねらい

日本の社会保障制度の今後の在り方について考えを持ち、追究する中で自分の考えを深めていくことができる。

(社会的な思考・判断)

(3) 「活用力」(特に「表現力」)を高める工夫(展開 部)

資料に基づいて現状を認識した上で、社会保障制度の充実のために国や地方公共団体が果たすべき役割について考え、根拠を明確にして発表し合う場を設定する。さらに定年退職した方へのインタビューを通じて、社会保障がお金だけではないことに気づかせ、考えを深める場を設定する。

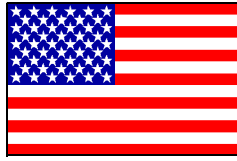
(4) 準備

ネームプレート ワークシート 津幡町高齢者福祉の資料
定年退職した方へインタビューした映像 ロールプレイ用名札 資料パネル

(5) 展開

段階	配時	学習活動と予想される生徒の反応 (○)	支援 (☆★) と評価 (◎)
つかむ	5	1 前時までの学習活動をふり返る。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 今の社会保障制度は今後どう改善していけばよいだろうか？ (2) ～社会保障制度の今後の在り方について考えよう～ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・本時の課題を確認する。
追究する	15	3 「日本の社会保障制度」と「外国の社会保障制度」の違いを調べ、わかったことを発表し合う。 4 アメリカとスウェーデンの社会保障制度のメリット・デメリットについて調べ、表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ☆アメリカとスウェーデンの社会保障制度を、ロールプレイ形式で理解させる。 ☆資料パネルを使って2つの国の社会保障制度を比較する表にまとめる。 ・財政の裏付けについて触れる。
	15	5 日本の社会保障制度は、今後拡大して行くべきか(スウェーデン型)、縮小していくべきか(アメリカ型)を考え、自分の考えをノートに記入する。 6 自分の意見をネームプレートを黒板に貼って示す。 7 それぞれ根拠を明確にして意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ☆前時の学習内容を生かして考えるようアドバイスする。 ☆キーワードを示して考えを深めさせる。 高福祉 低福祉 高い税金 低い税金 急速な高齢化 国や地方公共団体の責任 ・左右に伸びる矢印上にネームプレートを貼らせ、他の人がどんな考えかを見られるようにする。
まとめる	15	8 意見交換後の自分の意見を記入し振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> キーワード 社会福祉の充実・現役世代の税負担 自己責任・国や地方公共団体の責任 </div> 9 高齢者にとって生きがいのある生活ができる社会とはどのような社会なのか、定年退職した方へのインタビュービデオを見て考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・変容や深化した点に着目し記入させる。 ◎自分の考えを深めることができている。 ★C → B への支援 今後の社会保障制度に対する考えを他の人の意見を参考に書くようアドバイスする。 ★B → A への支援 社会保障制度の財源についても根拠を示せるようアドバイスする。(観察、ノート) ☆高齢者へのインタビューをあらかじめ録画しておき、安心して暮らせる社会のためにはお金だけではないことに気づかせる。 ・津幡町で実行されている高齢者福祉の政策について知らせる。 ・自分たちにも関われる分野であることを確認する。

シナリオ 1



アメリカ型

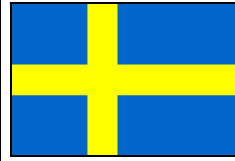
A : 保険に入るのも入らないのも自由！
なんて素晴らしい自由国家、アメリカ！

B : 大変です！あなたの奥さんが緊急入院しました。急いで病院へ！

A : ええっ！なんだって！！入院の保険なんて入ってないよ…お金がかかる…。
一体何日間入院することになるんだろう…
…どうしよう…。

B : 奥さんの様態より、お金の心配ですか…。

シナリオ 2



スウェーデン型

A : 毎月の給料からこんなにも税金が引かれて残りはこれだけ…小遣いも消費税が25%じゃすぐになくなってしまおうし。働く気力が無くなるよ…。

B : でも、子育てにかかる費用はいっさいかからないし、大学まで授業料はただよ。
しかも給食費もただ。医療費もただ。税金はこの子たちの子育てに支払っていると思えばいいじゃない？

A : まあ、一生安心社会だけどな…
早く年をとって楽な生活をしたいが、長生きしなかったら全くの大損だよ。